

獅子舞

花巻人形は、江戸時代中期の18世紀初め頃、全国の土人形の源流といわれる京都の伏見人形と仙台の堤人形の流れを汲み、独自に発展した人形です。人形の表面だけを彩色し、背面は白い胡粉のままなのが特徴です。また、人形の胴体部分は空洞になっており、そこに小粒の石や砂を入れて、和紙で底に蓋をします。そのため人形を振ると、「カラカラ、サラサラ」と軽い音が響き、幼児をあやすときに、使われていたといわれています。

今回紹介するのは「獅子舞」。笑みを浮かべた子どもが、獅子を頭に乗せて軽やかに舞っています。獅子頭を頭にかぶって舞う伝統芸能の獅子舞は、唐から伝わり、変容を重ね、日本各地で正月行事などに、幸せを招き五穀豊穡の祈願や悪魔払いとして行われています。獅子に頭をかまれると、その年は無病息災で元気に過ごせるといいうい伝えがあります。獅子舞は大自然の霊力を我々に授けてくれる不思議な芸能です。

日本各地には多種多様な獅子舞が見られます。それぞれの地域の人々によって独自の舞い方が形成され、宗教的行事や地域のお祭りに欠かせない郷土芸能として定着しました。



花巻市博物館所蔵(高15.6 幅11.4 奥5.5)